

鈴鹿市・ベルフォンテン市
青少年相互交流事業

2023年7月26日～31日

受入れレポート

(公財) 鈴鹿国際交流協会

【7月26日(水)】

*鈴鹿到着

13才~18才までの中高生8名と2名の引率者計10名が、鈴鹿市にやってきました。
鈴鹿市役所のロビーでホストファミリーと面会して、それぞれホームステイに向かいました。
猛暑の中、名古屋を観光してからの到着で疲れていたと思いますが、一行は、皆、笑顔で明るくホストファミリーと挨拶をかわしていました。事前のやり取りもあったので、やっと会えたね！
と言った感じでハグする家族もありました。



*ホストファミリーと面会⇒ホームステイへ



【7月26日(木)】

*保健センター

翌日から2日間は、市内視察及び交流の日でした。

まずは、保健センターに行きました。長引くコロナで、青少年交流事業も、オンライン交流を余儀なくされていきましたので、ようやく対面での交流が叶った今、改めてコロナについて振り返ることになりました。

玄関から、保健センターのみなさんに拍手と共に歓迎して頂き、ミーティングは始まりました。



まずは、ベルフォンテン生が、日本語で自己紹介をし、続いて COVID-19 が自分たちにどのような影響を与えたか、一人ずつ発表をしていきました。



たくさんの生徒が、学習不足や成績不良に陥ったことを述べ、また、友人との隔離や運動不足、昼夜逆転の生活などに焦りを感じ、また、オンライン授業の為の適切な配慮が欠けていたりしてストレスが溜まったというような意見もありました。

しかし、そんな中で、料理や音楽、カヤックなど、新たな趣味や楽しみを見つけた！という意見もあり、同時に家族と過ごす時間も増えた、ととてもポジティブな意見もありました。

置かれた環境で、楽しみを見つける姿勢は、とても素敵だな～と感じました。

ホストファミリーの子どもたちからも、コロナ禍での学校生活について、お話をしてもらいました。



そして、保健センターの方からは、業務の内容について、日本での新型コロナウイルス感染症の推移とワクチンについてなどのお話があり、日本でのコロナ対策の説明などもありました。

おおよそ、アメリカも日本も変わらない印象がありました。

*飯野高校訪問～学生間交流～

次に飯野高校で、英語コミュニケーション科の皆さんと学生間交流しました。

教室に入るなり、飯野高生さん達の熱くてエネルギッシュな歓声・リアクションに、ベルフォンテン生は大喜び！！やはり同じ年ごろの学生同士ですから盛り上がりますネ。

全編英語でコミュニケーションしました。

飯野高校には、たくさんの外国につながる生徒が在籍しています。はじめに、色々な国籍を持つ生徒達の紹介をしてくれた後、日本や三重県の観光スポットの紹介、そして、学校や制度についての紹介をスライドを使って説明してくれました。



生徒たちの会話は活発で、ファシリテータなど必要ありませんでした。授業の形態や授業数、授業時間などの違いを話したり、夏休み期間の長さの違いに驚いたり、車を運転して登校する話にびっくりしたりで、話す内容は尽きませんでした。



***鈴鹿市役所表敬訪問**

飯野高校から一転！市の皆さんの歓迎の中、庁議室へ向かうにつれ派遣生達の緊張感が高まりました。



市の皆さんの歓迎の中、庁議室へ



副市長が歓迎の挨拶



SIFA 理事長 挨拶



教育長 挨拶



ベルフォンテン生が日本語で挨拶



訪問団代表の Kris Swisher さんが、ベルフォンテン市の Ben 市長から預かってきた末松市長への親書を朗読し、副市長にお渡ししました。



次に、副市長が英語で鈴鹿市の紹介をしました。鈴鹿の産業や特産物、伝統工芸品や観光スポットなど、鈴鹿市の魅力をたくさん伝えました。





ホストキッズからも、ホームステイの抱負を聞きました。「普段はシャイでなかなか話せないが、良い思い出を持って帰って欲しい。」とか「英語のスラングを教えて欲しい！」など、ホストの思いが垣間見えました。



みんなで記念写真

*議場見学



議場では、席の説明や議会のルール、議員の選び方の説明などがあり、議員が自分の席にある名前の書いた黒い棒を立てると、それで、出席者数がわかる仕組みなども教えてもらいました。そして、コロナ禍での感染症に関する取り組みや対策なども話がありました。その後、現在の市議会議長が議長席に上がり、英語でご挨拶しました。山中議長は、アメリカの大学を卒業されています。日本側も、年々通訳を必要としない方が増えてきて、時代の流れを感じました。



【7月28日(金)】

* 椿大神社

ここでは、鳥居のくぐり方、参拝の仕方、おみくじやパワースポットの紹介などをしながら歩きました。そして鈴松庵でお抹茶席を体験し、お茶を飲む作法も勉強しました。



*消防署見学

鈴鹿市消防本部では、隊員さん達によるデモンストレーションを見学した後、放水体験とはしご車の搭乗体験をしました。かなり高い所まで上げてもらって、皆のテンションも上がり気味でした。



鈴鹿市とベルフォンテン市の市旗も一緒に掲揚されました

*昼食



消防署の一室をお借りして昼食を取りました。お弁当は、社会福祉法人朋友の就労継続支援 B 型事業所 Cotti 菜さんに頼みました。この後、同じグループのアクティブ鈴鹿を見学するので、障がい者支援についての学びの一環としました。

*アクティブ鈴鹿見学

午後は、就労継続支援 A 型・B 型事業所のアクティブ鈴鹿を見学しました。

理事長の伊藤良一さん自らが、ご自身が負った障害についてお話をされ、それから出会った多くの障害者の方々を取り巻く就労実態を知ったことから、障がい者雇用の推進をライフワークとして取り組まれているというお話を聞きました。

その後、職場を見学させて頂き、ハーネスの組み立ての工程などを見て廻りました。

伊藤理事長のお話は、気付かされることが多く特に印象的だったのは、障がい者のことを考えることが、多くの健常者の従業員が抱える（子育て・介護・フルタイムで働けないなど）問題も、結局は“皆がそれぞれの事情を持って働いている”という事に違いはない、という気付きに繋がり、いずれ全ての従業員が働きやすい職場づくりを目指した、というお話が印象的でした。

また、単に就労させるだけではなく、彼らが自分で生活できる障がい者用のアパートを作って、自立支援をしている点も、素晴らしかったです。障がい者の方々も、それぞれのスピードで少しずつたくましくなっていくと言うお話に感銘を受けました。



＊着物文化体験

この日最後は、牧田コミュニティセンターで恒例の着物試着体験を行いました。

華賀きもの学院の皆様にはベルフォンテン生には着物を、ホストキッズには浴衣を着付けて頂きました。

着姿があまりにも美しいので、思わずため息が漏れてしまいました。



儀賀先生の着物についてのお話はとてもチャーミングでした♪

その後、着物や浴衣を着付けて頂きました。

正面舞台には、花嫁衣裳や七五三の衣装など展示して頂き、刀のレプリカや和傘などの小物を持つての記念撮影に盛り上がりました。



風呂敷の紹介コーナーでは、事前に風呂敷で包まれた色々なものをよく観察した後、風呂敷をほどき、グループごとに包み方を再現して元通りにできるかどうか競いました。なかなか良い出来でした！！





**ベルフォンテンのみなさん、着物がよく似合っていますネ！
ホストキッズも、久しぶりの浴衣着用で、更衣室は大盛り上がりでした。
日本の文化、大切にしたいですね。**

ベルフォンテン生の鈴鹿滞在期間中、ホストファミリーと丸一日過ごすのは、この日一日だけ。ベルフォンテンの生徒たちは、それぞれの家族と色々な場所に行って、満喫したようです♪



【7月30日(日)】フェアウェルパーティ@さくら幼稚園

*市長挨拶

ホストファミリーのみなさんに感謝の気持ちを込めて、フェアウェルパーティを催しました。
まずは、市長からご挨拶と共に、Ben 市長への返礼のお手紙を読み上げました。



派遣団代表の Kris さんが預かって、ベルフォンテン市長に届けて頂きます。
ホストファミリーのみなさんへの感謝の気持ちも伝えて頂きました。

その後、市長と一緒に、グラウンドで記念写真を撮りました。芝生の緑が映えて良い写真になりました♪



*Lunch time♡

ブラジルのキッチンカー2台に来てもらって、ボリュームのあるチーズバーガーとパイン入りのしっとり冷たいデザートを振舞いました。ちょっと時間がかかってしまったけれど、とても美味しかったと味は好評でした♪



*家族対抗ゲーム合戦

・けん玉



・コーンホール



・ボルダリング



家族対抗戦の優勝者発表！！

総合得点が一番高かった Yoshii Family が優勝賞品を GET！！おめでとう！！

優勝賞品は、ちょっと豪華なワイヤレスイヤホンを Neil と家族にひとつずつプレゼントしました。



Neil は嬉しそう！ここは双子くんだったので、ケンカしないで仲良く使ってネ。

*飯野高校生による英語スピーチ

飯野高校から3名の生徒が来て、英語でスピーチをしてくれました。
一人目は、「コンビニエンスストアの歴史」について発表してくれました。
二人目は、「タビタビ ポ」というおまじないのお話でした。
三人目は、「日本の美味しいお菓子」についてのスピーチでした。
みなさん、とても発音もよく、しっかりとしたスピーチでした。



*ベルフォンテン生によるパフォーマンス

次に、ベルフォンテンメンバーがステージに上がり、アメリカのプロムパーティで踊るといダンスを披露してくれました。



ダンスの披露の前に、ホームステイで一番印象に残ったこと、楽しかったことを一人ずつ発表しました。ダンスは、途中からホストキッズや飯野高生達が参加して皆と一緒に踊りました。

*ALT 活動紹介

教育委員会から指導課の先生とおふたりのALTさんに来て頂き、外国人指導助手のお話をして頂きました。ベルフォンテン生がいずれALTとなって、又鈴鹿に戻ってきてくれると嬉しいですね。



*教育長挨拶

廣田教育長からもご挨拶を頂きました。

教育長は、これまでも、オンラインでの交流会に何度も参加して頂いておりましたが、今回ようやく対面での面会を果たし、実際に交流することの大切さにも言及していただきました。

そして、前出のALTたちのように、いずれまた、鈴鹿に戻ってきてくれると嬉しいというお話もされていました。

廣田教育長も、海外経験がお有りになり、国際交流の大切さは良くご存知ですので、その言葉はきっと生徒たちに届いたと思います。



*英語落語



次に、通訳の Taka さんが英語落語を披露してくれました。

Taka さんは、何とこの日プロ初デビュー！！

演目は、ホワイトライオンでした！

とても分かり易くて面白かったですが、小学生以下の子どもたちには少し難しかったかな??

これを機会に、より一層、英語に触れ親しんで欲しいと思います。

*Monicah's Bounce による演奏

ラストは、アフリカケニアから来たモニカによるバンドの演奏でした。

初めは相談で SIFA に来ていた彼女ですが、日本で出会った友人達とバンドを組んで、みるみるうちに近隣のコンテストで優勝をさらい、鈴鹿では、次第に有名バンドになりつつあります！

今や近隣のイベントには引っ張りだこ！！透き通るような美しい歌声に魅了されました。



*カントリーロード ベルフォンテンバージョン

このベルフォンテン事業には、歴代共通した思い出の曲があります。カントリーロードの替え歌ベルフォンテンバージョンです。

歌詞の中に、ベルフォンテンの主要な場所の名前が入り“sister city Bellefontaine”の歌詞もあります。

これを初めてベルフォンテンで歌った時、メディアにも取り上げられて、地方のラジオ局で派遣生達の歌う曲が流されたり、歌詞に登場するチョコレート屋さんのオーナーは、感動して涙を流されました。

そんな思い出の曲を、このベルフォンテンプログラムに関わった人全員で歌おうと、今回も、Monicah's Bounceのみなさんに演奏と歌をお願いし、ベルフォンテンメンバーもホストファミリーも、みんなで声を合わせて一緒に歌いました。
とても良い思い出になりました。

Take Me Home, Country Roads (Bellefontaine Version)

Almost heaven, Logan County,
Mad river mountains, Marmon Valley Farm,
Life is old there, older than the trees
Younger than the mountains, blowing like a breeze

Country roads, take me home
To the place, We be-long
Sister city, Bellefontaine
take me home, country roads

All my memories, in the summer time
Just like a magic, I will never forget
Ohio Caverns, Indian Lake Resort
First concrete street, Marie's chocolates

Country roads, take me home
To the place, We be-long
Sister city, Bellefontaine
Take me home, country roads

I hear her voice, in the mornin' hours she calls to me
The radio reminds me of my home far away
And drivin' down the road I get a feeling'
That I should have been home yesterday, yesterday

Country roads, take me home
To the place, We be-long
Sister city, Bellefontaine
Take me home, country roads
Take me home, country roads
Take me home, country roads

refrain...

*SIFA 理事長おわりの挨拶



最後に、鈴鹿国際交流協会の理事長 後藤 光雄より、ご挨拶をしました。

後藤理事長は、ここさくら幼稚園の理事長でもあります。

今回、場所や機材などを使わせて頂き、又、ボルダリングなど、子ども達が喜ぶようなツールも使わせてもらって、内容盛り沢山でさよならパーティを行うことが出来ました！

さくら幼稚園に感謝申し上げます。



【7月31日(月)】鈴鹿を出立

出立の日の朝、集合した市役所で最後の記念写真を撮りました。

お別れのハグをし、楽しい思い出をたくさん残して一行は、旅立って行きました。

ベルフォンテン生にもホストファミリーにも、何かが確実に残る貴重な6日間でした。



鈴鹿市・ベルフォンテン市青少年相互交流事業では、長年に渡って両市の若者が海外でのホームステイを通じて異文化に触れ、多くの人々と交流し、相互理解と友好親善を築いてきました。

長引くコロナ禍の中で、オンラインでの交流を余儀なくされましたが、実際に外国を訪れ、自国とは全く異なる風習の中で互いを理解しながら歩み寄る経験は、オンラインでは得られない非常に貴重なもので、生徒たちを大いに成長させます。

この素晴らしい経験を可能にいただいたホストファミリーの皆様と関係者の皆様に深く感謝申し上げますと共に、今後も青少年の相互交流を継続し、両市の友好関係が一層深まるように取り組んでまいります。

(担当：Chico Nakano)